

### 30. 北海道産ならフローリングのヒラタキクイムシの付着経路の調査および製造工程中における処理法

#### 1 試験担当者

木材部防腐研究室：雨宮昭二，井上 衛

木材部加工研究室：星 通

保護部昆虫第二研究室：野淵 輝，古田公人 ほか

北海道支場昆虫研究室：山口博昭 ほか

#### 2 試験目的

最近ならフローリングにヒラタキクイムシの被害が集団発生して、今後のなら材の需要に対して大きな障害となっており、虫害のため、なら材の需要が減少することは残念なことで、ならフローリングの流通過程における付着経路を明らかにすることにより、流通過程における重点的な防除対策を確立するとともに、フローリング製造工程中における防虫処理法を確立し、防虫処理製品として市場に出すことにより、需要の確保をはかることを目的とする。

#### 3 昭和43年度の経過とえられた結果

- 1 ヒラタキクイムシ類の分布と被害の実態調査を行なった。
- 2 被害の実態調査においては、北海道地方では、札幌付近、旭川、北見などの工場ならびに被害物の調査、東京付近では深川木場の問屋の倉庫、住宅公団団地の被害フローリングの調査を実施したが、調査結果は北海道のフローリング工場には被害はみられなかったが、札幌の民家、支場の書棚などにヒラタキクイムシの被害がみられ、北見の学校においてはナラヒラタキクイムシの被害も発見された。  
東京地方の問屋でも被害材が発見され、また団地の被害フローリング材の調査では食害孔は辺材のみ、脱出孔は心材にも多少認められた。辺材の澱粉量に比例して被害率が高くなっている。
- 3 北海道フローリング工場8カ所を選び、原板から製品までの寸法と含水率をしらべ、製造工程の調査も行なった。
- 4 なら材の原板と仕上り製品に対する薬剤処理法と処理条件については、製品の処理として油性薬剤の浸漬処理を行ない、原板処理として珪素化合物の拡散法処理を行ない、工場における実際的な処理条件を大要明らかにすることができた。

#### 4 昭和44年度試験計画

- 1 木材倉庫におけるくん煙剤による効果の限界の調査



- 2 実験室における結果をもとにした工場における防虫処理法の実施
- 3 防虫処理材の防虫効果の調査
- 4 ヒラタキクイムシとナラヒラタキクイムシの被害の実態調査
- 5 薬剤試験のためのヒラタキクイムシの大量飼育法，とくに温湿度と発育の関係を検討する。